

# Prize

## 研究の質に対する外部評価

SSH研究開発で研究・改良された「探究基礎」を通じて培った探究能力に対する外部評価として、外部コンテストに応募しました。



ボーダフォン・モバイル・エコスクール  
2年生共同研究が応募，グランプリを受賞  
松下瞬，藤田英里香，今井貴彦，岩崎哲也，植田準子，木村優介  
多点観測によるヒートアイランド現象と雲の姿

第1回 ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ  
3件が1次審査を通過  
井上拓也 「酸塩基の逆滴定」  
岩崎哲也 「ツバメは巣を作る場所を選ぶのか」  
笠嶋慶純 「分子の『ゆらぎ』を見る」

第47回 日本学生科学賞  
6件が読売賞を受賞  
植田準子 「宇宙は膨張しているのか」  
木村優介 「簡易吸光度計を用いたリン酸の測定」  
谷垂由美 「ニュージーランドの水の分析」  
林 映里 「琵琶湖における外来魚問題」  
藤田英里香 「京都のヒートアイランド現象を調べる」  
横井陽馬 「圧力と温度の関係について」

第8回 京都サイエンスコンテスト  
5件が入賞，学校賞「優秀校」  
京都市立高等学校理化研究会会長賞  
谷垂由美 「ニュージーランドの水の分析」  
京都市立高等学校生物教育研究会会長賞  
岩崎哲也 「ツバメは巣を作る場所を選ぶのか」  
京都市青少年科学センター化学賞  
井上拓也 「酸塩基の逆滴定」  
佳作  
橋 鮎郎，濱中 僚 「風洞実験機の製作」  
赤水希衣 「球状星団の観測から銀河系の誕生の時期を探る」

## まとめ

今年度は、  
「専門的実験・演習により生徒の探究心は高まる」という仮説を、生徒の設定した課題のジャンルに注目することにより、肯定的に立証できました。より正確・精密に教育活動評価を行うために「探究する力」測定法の開発・検証に一層力を入れていきます。また、探究基礎における研究開発の成果である「探究する力についての具体的な目標」は今年度、本校普通科における「総合的な学習の時間」において利用されました。しかし、新たに開講された科目だったため、前年度との教育効果の比較ができませんでした。こういった場合も事前・事後調査で生徒の到達度がどのように変化したかを推定することのできる測定法が開発できれば、教育活動の評価にとって大きな助けとなるでしょう。

またSSH研究開発を通じて、教育活動の効果をより客観的に検証していくことの重要性が、改めて確認されたことは、本校にとって大変に有益であると考えます。

## 来年度の目標

「探究する力」測定法の研究開発を継続して行う  
測定法の妥当性について外部評価を受ける  
測定法を用い、より客観的な内部評価を行う  
「教育目標を具体化し、行動・数値目標に置き換え、教育活動に客観的評価を与える」という手法を学校全体で活用していく